

～～第8781回～～

武奈ヶ岳・岳山

～R1. 10. 20-21～

1 日目(10/20)古くから信仰の山として親しまれている岳山に登る。安倍川駅からレンタカーで出発する。新東名・新名神高速道路を經由して京都東ICで降りた。少し渋滞したので約5時間かかって近江高島駅に着いた。駅前の駐車場から車道を20分歩いて大炊神社に着く。境内では木の葉がうっすら色づきトンボが飛び交っていて秋の風情だ。ストレッチ後、獣害柵をぬけて林道を進みリトル比良コースに入る。沢のせせらぎと鳥のさえずりが聞こえてくる中、大きなシダと松の若木の道を登って行く。道幅が狭くなると前日の雨で湿っていて滑りやすかった。しばらくして視界が開けて展望のよい所にでると庭園のような風景が見られた。賽の河原でひと休憩してブナの巨樹を過ぎて、ほどなく右手に真っ白な花崗岩の風化した斜面を眺めながら登る。白坂からさらに進んで稜線に出ると伊吹山や琵琶湖が望めた。弁慶の切石をたどり岳観音跡に着くと瓦が散乱していた。この先で昼食をすませた。ここからは大きな岩や小さな岩場を越えて緩やかな道になると岳山(565m)に着いた。石室があり観音様が祀られていた。樹木の間から伊吹山や鈴鹿の山の眺望を楽しんだ。見張山への周回コースの予定だったが下山の時間を考慮して往路を戻ることにした。下山後、コテージ泊で自炊する為、高島町のスーパーマーケットで食料を購入して宿に向かった。今日は青空のもと、自然と歴史の両方が楽しめて幸せ気分の良い日だった。そして夜の更けるのも忘れて楽しい時間を過ごした。

2 日目(10/21)かつてブナの木が多い山だったことが由来となっているという武奈ヶ岳に登る。朝の気温 14℃だが寒くはない。コテージを出発して鯖街道を走り屑川坊村の駐車場に着く。周辺は茅葺屋根やとんがり屋根の家が多く、昔ながらの原風景が見られた。ヒルがいるとの情報にスパッツを着けた。向かいの明王院の横にある朱塗りの橋を渡り登山口へ入る。しばらく進むと御殿山コースの道標があり、いきなりつづら折りの急登がはじまった。台風の爪痕だろうか、縦に切り裂かれた無残な立ち枯れ木や杉の巨木の倒木、枝打ちされた枝等が散乱している荒れた登山道が目に入ってきた。それらが登山道をふさいでいる所が5～6ヶ所あり難儀した。でも苔むした老木に若木が育っていて新しい命の成長を見つけると気持ちが楽になった。杉林からモミの木が目立ってくると穏やかな道になった。山腹の道を巻いて行くとアセビの木が多くなりイワカガミの群生も見られた。さらに原生林の明るい緑の林をぬけて尾根を登って行くと御殿山(1097m)に着いた。山頂からはこれから目指す武奈ヶ岳が望めた。まだ遠い…。ワサビ峠のすぐ手前で早めの昼食をとった。峠を過ぎてからは西南陵の緩やかで歩きやすい落ち葉道が続いた。所々にリンドウの花が咲き、雪の重みでしなり倒れかけても伸びている木々の生命力の凄さに感動した。またツゲの木が刈りそろえたような形になっている自然の芸術作品があった。鹿が若葉を食べた形跡かと思った。ここから風になびく草紅

葉の稜線歩きが 30 分ほどで武奈ヶ岳(1214m)山頂に着くと強い風が吹いていた。登り始めてから 4 時間かかった。明るい空になり 360 度のパノラマを満喫した。眼下に琵琶湖の景観が広がり、鈴鹿山系や京都方面の山並みまでくっきり見えた。日本海側から霧がわきあがってきて幻想的だった。対岸の山々は紅葉していたが台風の影響で落葉して枯れ始めていた。山座同定を楽しんで往路を戻った。帰路、静岡に向けて走り出すとパラパラと雨が降りはじめ、静岡に着く頃には大降りになった。日本二百名山の人気のある山で数組の若いハイカーと行き交い声掛けに元気もらった。また心配したヒルもいなくて快適な山行で、全員が事故なく無事に帰れて感動と感謝の 2 日間だった。

参加者：9 名（静岡西 8、藤枝 1）

天気：①晴れ ②薄曇り

地図：北小松・勝野

コースタイム：安倍川駅 500＝近江高島駅 1000…大炊神社 1025…賽の河原 1100…岳観音跡 1145…昼食 1150-1220…岳山 1300…弁慶の切石 1340…賽の河原 1430…大炊神社 1445＝コテージ 1630-710＝坊村 P 805…御殿山 1045…昼食 1100-20…ワサビ峠 1123…武奈ヶ岳 1200-15…ワサビ峠 1245…分岐 1340…明王院登山口 1525＝京都東 I C 1630＝安倍川駅 2150

記録：静岡西支部 K・H